

## IV. 令和元年度後期 岸和田サテライト開講授業

### 1. 大学院授業科目

授業科目名 (英文表記)	財務会計論特殊問題 (Financial Accounting)		
単位数	2	授業形態	講義
担当教員	山田 恵一		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間 240分×6回 (合計90分間の 休憩を含む)	第1回 10月12日(出) 9:00~13:00	第4回 11月2日(出)	9:00~13:00
	第2回 10月19日(出) 9:00~13:00	第5回 11月16日(出)	9:00~13:00
	第3回 10月26日(出) 9:00~13:00	第6回 11月23日(土・祝)	9:00~13:00
<b>【授業の概要・ねらい】</b>			
財務会計に関する理論を計算問題を通じて分かりやすく教えることを目的としています。教科書に書いていない理論的な部分は主に板書と講義ノートで対応します。授業中は学生に質問します(質問に答えられなくても減点はしません)。また、蛍光ペンで大事な箇所を色分けしながら授業を進めます(7色の蛍光ペンを毎回の授業に持ってきてください。なお次のように色分けします。ピンク：超重要、水色：定義、黄色：～の場合、緑：重要、オレンジ：理由・目的、紫：具体例、茶色：会計基準・法律の条文・財務諸表における表示箇所)。毎週、授業で習った範囲について問題集の問題をレポートとして課します。 単なる暗記ではなく、どうしてそういう会計処理をするのか等を皆さんに伝え、考えさせる講義をしたいと思っています。			
<b>【授業計画】</b>			
第1回 減損会計、のれん・共有資産の処理 第2回 負債会計、引当金 第3回 資産除去債務 第4回 リース会計 第5回 退職給付会計(企業自身が退職給付を行う場合、年金基金を設けて給付を行う場合) 第6回 過去勤務費用、数理計算上の差異、未認識の差異がある場合の退職給付引当金			
<b>【到達目標】</b>			
1. 修士論文のテーマを適切に選ぶことができるようになる。 2. 会計学の基礎理論、技法、手続きなどを問題演習も利用して理解する。 3. 日商簿記検定1級、税理士試験、簿記論・財務諸表論で出題されるレベルの問題を解けるようになる。 近年、受講生の全員が税理士を目指している学生および社会人のみとなっています。			
<b>【成績評価方法】</b>			
レポート点の合計点で評価します。80点以上は評価Aとし、70点以上80点未満は評価Bとし、60点以上70点未満は評価Cとします。60点未満には単位を認定しません。レポート点は出席したものをカウントします。4時間×6回の講義がありますが、4時間のうち最初の1時間だけ欠席であれば、その回のレポート点は、通常のレポート点に3/4を乗じた点数とします。出席点はありません。なお、欠席が全体の1/3を越える学生は、単位が認定されません。理由は、出席した時だけレポートを受け取るのでレポート点で60点未満となるからです。詳細は第1回の講義で説明します。			
<b>【教科書】</b>			
1. 『日商簿記1級に合格するための学校 [テキスト] 商業簿記・会計学 基礎編1』 製造元：ネットスクール出版、定価：2,160円(税込)、ISBN：978-4-7810-3149-1 2. 『財務会計論II講義ノート』、デザインエッグ社、山田恵一、ISBN：978-4815008376 3. 『財務会計論III講義ノート』、デザインエッグ社、山田恵一、10月1日以降、アマゾンで販売されるので、検索して購入するようにしてください。 また、毎回の授業に必ず持ってきてください。本屋を通して購入することもできますが、届くまでに時間がかかります。			
<b>【参考書・参考文献】</b>			
以下は問題集です。授業に持ってくる必要はありませんが、この問題集がレポートとなるので、必ず購入する必要があります。授業中に指示が無くても、授業で学習した範囲について、以下の問題集を解いてレポートとして提出してください。 『日商簿記1級に合格するための学校 [問題集] 商業簿記・会計学 基礎編1』 製造元：ネットスクール出版、定価：1,944円(税込)、ISBN：978-4-7810-3150-7			
<b>【履修上の注意・メッセージ】</b>			
第1回目の授業に、教科書と講義ノートを準備して必ず持ってきてください。授業は全出席が大前提であり、一度でも休むとその後の授業が分からなくなるので、絶対に休まないようにしてください。 また、授業開始時に着席していなければ最初の1時限は欠席となります。レポートは、授業の最初に集めます。また、出席した日のレポートのみ受け取ります。なお、私語、携帯電話の使用、居眠り、あくび、肘付きは一切許しません。厳しいことが書いてありますが、過去に少数の問題のある学生(電話に出るために何度も教室を出たり入ったりする学生、毎回の授業で居眠りする学生など)が居て、受講生からクレームがあったためそのような対応をしています。			
<b>【履修する上で必要な事項】</b>			
この科目は、大学院の授業であり、能力的に日商簿記検定2級の学習が終わっている学生を前提としています。能力的に不安のある学生は、『日商簿記1級に合格するための学校 [テキスト]』と『財務会計論I講義ノート』を購入し、減損会計の前までの章を読んで理解したら、該当する範囲の問題集『日商簿記1級に合格するための学校 [問題集] 商業簿記・会計学 基礎編1』の問題を全て解いてくるようにしてください。			
<b>【授業時間外学習についての指示】</b>			
毎週、授業で習った範囲について問題集の問題をレポートとして課します。授業中に指示が無くても、必ず毎回レポートを提出してください。問題文をレポート用紙に書き写す必要はありません。レポート用紙に問題を書いて、採点したものを提出してください。問題集の解答用紙をコピーして、それに問題を解き、採点したものをレポートとして提出しても構いません。 レポートには表紙を必ず付けてホチキスで留めてください。表紙には、科目名、提出日時、レポート範囲、学籍番号、氏名を明記してください。			
<b>【その他連絡事項】</b>			
日商簿記検定2級以上取得者以外の受講を禁止します(去年開講した企業会計論特殊問題の受講者を除く)。本講義は大学院の授業です。ほぼ全員が税理士試験簿記論、財務諸表論の科目合格者及び受験生が占めている中で、自己啓発のために初学者が受講することにより、あまりにもレベルが違いすぎるなどの多くのクレームを受けました。また、実際に初学者向けの詳細な説明に時間を取られ、本来行うべきであった演習もできませんでした。授業は、端から全員に質問する形式で行いますので、初学者の方は質問されても毎回、全く何も答えられないという状況になります。 去年だけでなく、以前にも会計学の初学者であるのに授業を履修し、その学生のために授業の進度を遅くしたにもかかわらず、途中で履修放棄をしたため、他の学生から、シラバスで授業のレベルを明記しているのだから、初学者は受講させるべきではないとのクレームを受けました。クレームには対応する必要がありますので、状況を察して頂きご容赦のほどどうぞよろしくお願い致します。 自分で言うのも何ですが、難しい内容を分かりやすく教えてくれると授業の評判は良いです。授業の雰囲気も和やかで、4年連続で受講している学生を筆頭に、複数年受講している学生が何人もいます。特に、税法免除でこれから大学院に進学しようとしている学生は、入学前に大学院生から話を聞いたり、授業の雰囲気事前に確かめることのできる非常に良い機会ですので受講することをお勧めします。 原則、個人的な質問は授業の後に対応します。近年、授業や学問と関係ない質問を授業中にする学生が居て、他の受講生からクレームがありました。授業中に質問をする際は、授業の進度が遅れることと他の学生の時間も奪っていることを良く認識し、本当に必要な質問だけをするようにしてください(その場で質問しようと思っても、まずは休み時間に頭を整理してから質問するようにしてください、頭の中が整理されていないのに質問をする場合がほとんどです。)			